

## 10回掲載記念 教育新聞「円卓」



忘れた頃に時々書かせていただいていた「円卓」が10回目になりました。案外少ないなと思ったら、取材や対談、連載等の記事がたくさんありました。こちらは整理しきれないので、またいつか…ということにしましょう。

皆様、お読みくださりありがとうございました。

-  ①20230904 教育新聞「円卓」「激変時代の学びを創る」.pdf
-  ②20221215教育新聞「円卓」「S D G sと学校教育への展望」.pdf
-  ③20220801教育新聞一面「円卓」「教え込みでない学びの姿をつくれ」.pdf
-  ④20200414教育新聞「円卓」「新型コロナに負けない教育」.pdf
-  ⑤20200130教育新聞コラム円卓「子どもの学びに火をつける」.pdf
-  ⑥20190211教育新聞コラム円卓「大分県の紹介・待ったなし！今から」.pdf
-  ⑦20180928教育新聞「円卓」「ESD推進について議会での質問方法をこっそり教えます」
-  ⑧20170202 教育新聞【円卓】 [未来型学力への転換].pdf
-  ⑨20160310教育新聞「円卓」「混乱を鎮める」.pdf
-  ⑩20080512教育新聞「円卓」「千代に八千代に」.pdf



人類にとって命や健

康上の課題であったは

ずの新型コロナウイルス

ス感染症は医療の大混

乱にとどまらず、企業

活動の停滞、倒産や格

差の拡大、オリンピック

クの延期、教育の混乱

など、政治・経済・教

育・文化など社会全体

をハニックに陥れ、深

刻な打撃を与え続け

た。

また、地球の温暖化

は経済活動などによる

温室効果ガス排出量の

増加が原因と言われているが、地球沸騰ともいえる異常高温が広がり、農地の砂漠化、山火事や洪水などの多発、台風の巨大化など問題は拡大・深刻化するばかりである。

増加が原因と言われているが、地球沸騰ともいえる異常高温が広がり、農地の砂漠化、山火事や洪水などの多発、台風の巨大化など問題は拡大・深刻化するばかりである。

増加が原因と言われているが、地球沸騰ともいえる異常高温が広がり、農地の砂漠化、山火事や洪水などの多発、台風の巨大化など問題は拡大・深刻化するばかりである。

増加が原因と言われているが、地球沸騰ともいえる異常高温が広がり、農地の砂漠化、山火事や洪水などの多発、台風の巨大化など問題は拡大・深刻化するばかりである。

## 激変時代の学びを創る

今や世界における全

ての出来事は勝手につ

ながり、互いに影響し

合うようになった。極

めて短時間に問題を深

刻化させ、思いもよら

ぬ方向から人類に襲い

掛かってくるという激

変の時代に突入してい

る。

このような時代にお

日本持続発展教育推進フォーラム理事

手島 利夫

るのか、何が必要にな

るのか予測し、自己の

専門性を生かすために

必要な情報を収集して

的確に判断する能力や

多様な人々と協働する

ための表現力や実践力

の育成が求められてい

る。

「」である。

学年の年間指導計画

や教科書にある全ての

単元の中から、例え

ばSDGsに関するも

のをマーカーで色付け

すると教科・領域を

超えた学びの広がりや

つながりが見えてく

つながり、いくら

でも関連が広がるので

ある。

これらをどのように

つなげて学びのスト

リーがつかれるかは学

校やその学年の創造力

にかかっている。学び

をつなげ、激変の時代

を生き抜く人間を育て



SDGsが大ブレイクしている。ようやく学習指導要領で示す「持続可能な社会の創り手」の育成(ESD)

という理念が、社会全体で共有され、それが学校教育の在り方にまで及んできているのである。

しかし、各校での取り組み内容・程度は千差万別である。指導案にSDGsのロゴをひも付けた程度のものから、地域の課題に行政

や企業・関係機関と共に取り組み、その成果を国際交流の視点として、自分たちのキャリアや生き方について考えを深めたりするものまである。保護者も子供たちの成長や言動

並べるような子供の姿には、全く価値がないということを中心としてほしい。どこをどのように切ってもSDGsへの意気込みがほとばしるような学校教育を創っていかねばな

### SDGsと学校教育の展望

に期待を寄せている。どのようにSDGs

日本持続発展教育推進フォーラム

手島 利夫

に取り組むかは、各学校や教員への評価にもなりつつある。

各学校では年度末評価が始まる頃だが、その評価の視点そのものが時代遅れになっていないだろうか。未来世界で力を合わせて生き抜く子供たちをどの

はあったが、今や各教室では驚くほど上手な活用が進められている。

理念から末端の施策にまで一貫してSDGsの実現に向けた計画の改訂に頭が下がる。

持続可能な世界をどのように実現するかは、正解のない問いである。それなのに教師の顔をうかがい、大人の喜びそうな答えを

き抜く子供たちをどのように育めばいいの

基本的な資料を一斉配信すると、各自が開き、読み取ったことをグループで共有し、そこでまとめた意見を打

ち込み、全員が見ながら検討するなど、学習の多様化にも活用されている。もう、知識の伝達機関であった昔の学校には戻れないのである。「5年前に教えていたことを基に、ようやく市の教育振興基本計画の改訂ができました」と、ある市教委から先日資料が届いた。



全国各地を研究会や講演会などで回る中で、「小学生時代からいままでに主体的・対話的な学びを経験したことのある方、いらっ

しゃいますか」と声を掛けることがある。しかし、手を上げる方は一割にも満たない。

日本人の大人は「教え込み教育」の中で知識や技能を身に付け、その結果、他人よりも優れた成績や進路を得る喜びや悲しみの中で

育ってきたようではない。時代の変化の中で教育観も指導方法も、また教員自身も変え、持続可能な社会の創り手を育むために、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善

を求めている。

日本中のほぼ全教員に向かつて「あなたが今まで経験したことのない主体的な学びを創りなさい」と無理難題を言っているのである。

激変を続ける世界では同じ「正解」がいつまでも通用するわけが

### 教え込みでない学びの姿をつくれ

日本持続発展教育推進フォーラム理事

手島 利夫

子供たちを、「望む未来の姿」と「目の前の現実」とのギャップ

に出合わせ、そこで芽生えた問題意識を学習問題にまとめ、その解決に向かつて共に学び進める姿をつくることこそが「主体的・対話的な学び」に続く道なのである。

いたことが自分たちの考えや行動をも変容させるならば、それこそが「深い学び」の姿なのである。

わが国の教育を変え得る力は、どこにあるのだろうか。それは子供たちが目の色を変えて、自分たちの気付いた問題に立ち向かい、調べ、考え、判断し、表現し実行する姿を社会で共有することにある。

また、そのような学びづくりに向けて、変容を続ける教師の営みを方向付ける指導者層の覚悟も求められている。

日本の教育の潮目を変えるためにも、子供たちと先生方の学ぶ心に火をともし続けよう。

(元東京都公立小学校校長)

このような現状を踏まえた上で、それでも



命の危険が迫る中、

突然休校になり、変則的な卒業式や入学式になるなど、子どもたちにも先生方にも大きな負担がかかっている。しかし、この苦しい中にも活路を見出す教育実践に期待したい。

学校再開の第一に、感染症への対応力を向上させ、みんなの命や安全を守るための知識や意志や行動力を育てねばならない。そのためには、子どもたちが

家庭で体験していた苦勞話を出し合い、共感するとともに、世界各  
国で、今どんな問題が  
進行中なのか、それは  
いつどのように始まり  
広がり、感染者や死者  
の数がどのように変化

ようにすれば新型コロナ  
ウイルスを克服でき  
るのだろうか」という  
問題意識を共有化する  
ことである。  
またそれと同時に、  
各国の医療状況には固  
有の課題もある中で、

### 新型コロナウイルスに 負けない教育を創る

日本持続発展教育推進フォーラム理事

手島 利夫

しているのかという事  
実を示し、それに対し  
て、一体、いつどのよ  
うな対応が行われ、そ  
の結果、日本や世界で  
どのような状況になっ  
ているのか、さらに、  
克服にはどのような手  
立てがあり得るのかと  
いう疑問や不安を出し  
合い、「私たちはどの

世界各国のリーダーの  
問題への素早い気づき、  
情報処理力、判断力の  
重要性だけでなく、そ  
れを受け止める国民の  
思考力、判断力や共感  
力・実践力が国の存在  
をも左右するのだとい  
う現実にも目を向けさ  
すたい。  
学びの本質は感染症  
の問題だけではない。  
グローバル化し、激変  
を続ける時代において、  
持続可能な社会の創り  
手を育てるのが、私た  
ち教育者の大きな役割  
だとしたら、私たちは  
現実世界の悲劇をも教  
材として、子どもたち  
の問題解決能力の向上  
を図り、たくましく生  
き抜く力に変えていか  
ねばならない。  
大事なのは問題に気  
づく力である。まずは  
先生方がいつ、どの時  
点で、どんな出来事を  
通してこの感染症の恐

ろしさに気づき、学び  
始めたか思い返してみ  
よう。どの時点で気づ  
いたかが、その人の問  
題解決能力のレベルを  
表している。その反省  
も踏まえて、子どもた  
ちと気づきの出発点を  
振り返るとき、気づく  
力の未熟さに気づき、  
そこから「学びに火が  
つき」ESDの取り組  
みが始まるのである。

【記事のコピーが失われて  
いるため、本文を円卓の  
書式に合わせて、手島が  
復元したものです。】



りが得意ではない、と、れ、と言われているの  
多くのの方が答えまし  
た。ですから。  
だからと言って、む  
せなければなりません。

ここから、校内にも  
手本として学べる先輩  
教師がほとんどいな  
い、という現状が分か  
ります。  
やみに体験的な活動を  
取り入れたり、対話的  
な場面をつくったりし  
て、形だけそれらしく  
見せてもあまり意味が  
ないような人間には生  
きていく道がない、と  
言ってもよいかもしれ  
ません。

### 子供の学びに火をつける

日本持続発展教育  
推進フォーラム理事

手島 利夫

目指す学び合いへと、  
各学校の「覚悟」の  
す。  
各学校の「覚悟」の  
ほどは、教育課程に表  
れます。学習指導要領  
の前文や総則を徹底的  
に読み込んで、教育目  
標から見直しているで  
しょうか。総合的な学  
習の時間の目標との関  
連を図って、教科横断  
的な視点に立った資質  
・能力の育成を目指し  
ているでしょうか。  
今までの日本になか  
った、持続可能な社会  
の創り手を育てる学校  
を目指して、日本の教  
育を革新させていきま  
しょう。

ESDの取り組みの  
講師役などで全国各地  
の学校に招かれること  
が多く、そこでお目  
にかかる先生方全員に  
「皆さんは学生時代を  
通じて主体的な学びを  
体験したことがあります  
か」と問い掛けてき  
ました。

4月からいよいよ学  
習指導要領が全面実施  
となります。それなの  
に、このような状況で  
は小学校でも、中学校  
でも、高校でも「主体  
的・対話的で深い学び」  
がすぐに実現できるは  
ずありません。自分  
たちが受けたこともな  
い授業を想像してつく

ありません。大切な  
は、子供たちの問題意  
識を掘り起こし、単元  
を通じて学び続けさせ  
ることです。

先生方も全員が「子  
供の学びに火をつけ  
る」ことができる教師  
に向かって、「自ら学  
び、変容していく」覚  
悟を決めましょう。4  
月から、教え込みの指  
導だけでは、役に立た  
ない時代になるので

各教育委員会の画期  
的な指導にも期待して  
おります。

結果、8〜9割の先  
生方がそういう授業を  
受けたことがないとい  
う実態が明らかになり  
ました。しかも、自分  
自身主体的な授業づく

り、大人主体  
の授業から子供主体  
の学びへ、知識伝達型  
授業から子供の変容を

それには、大人主体  
の授業から子供主体  
の学びへ、知識伝達型  
授業から子供の変容を

それには、大人主体  
の授業から子供主体  
の学びへ、知識伝達型  
授業から子供の変容を

各教育委員会の画期  
的な指導にも期待して  
おります。



2020年度から小学校を皮切りに始まる新学習指導要領全面实施—。

これを前にして、各自治体の発する教育施策の貧しさに、私は落ち込んでいた。そんなとき、私に「手島先生、大分県のカリキュラム・マネジメントは、いいですよ」と耳打ちしてくれたのが、前文科省視学官で現在は國學院大学教授である田村学氏であった。

どこまでできているのかと半信半疑で大分県教委ホームページの「総合的な学習の時間全体計画例・単元プラン例」を見てみた。すると、教育委員会の資料なのに、温泉マー

取った。ある資料であると見て資料なのに、温泉マー取った。要点Ⅱ「カリキュラム・マネジメント」について、周囲の意見を知らず、周囲の意見に翻弄（ほんろう）さ

### 待ったなし！今から！！

日本ESD学会副会長

手島 利夫

クとシンクロをもじった「シンフロ」のロゴを入れたり、「待ったなし！次年度から？」

一方、全国の自治体の教育施策を見ると、

ある。学習指導要領告示後と待ったなしで取り組んでほしい。大分に学

いえいえ今から!!」のキャッチフレーズで人の心をつかむ工夫をしたり、斬新な内容と

要点である「主体的・対話的で深い学び」について、ある程度重視されているものの、

「持続可能な社会の創り手」の育成という重要な理念を持っていることを、その核心は

これは柔軟な思考力・判断力・表現力のあ

教育課程「実施」以前に大切な「編成」上のことや、その核心は



文部科学省は学習指導要領に前文をつけ、「持続可能な社会の創り手」育成に向けた「理念」まで明示しました。しかし、法的拘束力があるにも関わらずそのことに意識が薄く、見せかけだけの対応で済ませている教育委員会や校長先生方が多いのが現実です。

それに業を煮やした議員さんが、教育施策のどこに問題が隠れていて、それをどのように質問したらいいの

か、私の所に次々に聞きに来るので「ESD 議会質問マニュアル」を作って助言しています。

1 教育振興基本計画に「持続可能な社会の創り手の育

3 施策に向けて「確かな学力」を掲げているとしても、それが「基礎学力の向上」を意味しているのか、思考力・判断力・表現力等の育成の意味

5 カリキュラムマネジメントとして「ESDカレンダー」の作成か、

7 これらのことを校長・教頭あるいは教務主任等に対してどの程度の指導をしたのか。(文書資料があるなら示してもらおう)

## ESDについて議会での質問方法をこっそり教えます

日本持続発展教育推進フォーラム理事

手島 利夫

成」等を掲げているか。それとも明治以来の「知・徳・体」で済ませているか。

4 指導観・指導法の改善・工夫として「主体的・対話的で深い学び」つまり問題解決的で協働的な学習を目指しているか。それ

それ以上の教科等横断的な指導計画を明示しているか。

【記事のコピーが失われているため、本文を円卓の書式に合わせて、手島が復元したものです。】

2 目標や基本方針に「生きる力」「生き抜く力」を掲げているか、それとも「学力向上」至上主義か。

6 各学校の「教育課程」に上記のことがどれだけ記述されているか、そして、年度末の学校評価でどれだけ検

討・改善が進んでいるか。

【記事のコピーが失われているため、本文を円卓の書式に合わせて、手島が復元したものです。】



を生き抜くための思考  
 ・判断・実践力を育む  
 未来指向型教育への大  
 転換が進められようと  
 している。だから主体  
 的・協働的に学ぶアク  
 ティブ・ラーニングが  
 求められ、環境・人権  
 良い未来を創ろうと行  
 動する子供を育成しな  
 くてはならない。それ  
 ゆえの入試改革でなく  
 てはならない。今まで  
 の学力だけでは通用し  
 ない世界なのである。  
 中学校も高校も、受験  
 して、学習指導要領の改  
 訂を受け止め、未来型  
 学力への転換を全国民  
 に伝えよう。道徳も、  
 英語も、アクティブ・  
 ラーニングも、それだ  
 けでは枝葉の内容であ  
 る。枝葉に囚われず、  
 教育改革の本質に立ち  
 向かう勇気と決意、そ  
 れを国民に示す姿勢と  
 えにくい改訂の本質を  
 ジャーナリストや国民  
 に分かりやすく伝え、  
 全ての学校教育を変え  
 るまでが、あなたの方  
 の責任と考えてほしい。  
 それを怠ると前回の改  
 訂時のように、「円周  
 率を3・14で教えな  
 いのはなぜか」などと  
 いうくだらない方向の  
 議論になったり、「ゆ  
 とり教育」などの外的  
 力の誤解が広がったり  
 するのである。

## 未来型学力への転換

東京都江東区立  
八名川小学校長

## 手島 利夫

政治も経済も科学技  
 術も、全てが激変する  
 時代を迎えている。人  
 の生き方も働き方も大  
 きく変わろうとしてい  
 る。世界中の最新知識  
 がすぐに集まる時代  
 に、どんな教育が求め  
 られるのだろうか。そ  
 の答えが、今回の学習  
 指導要領改訂にある。

・国際理解等の視点か  
 ら学びを統合するカリ  
 キュラム・マネジメン  
 トが必要になるのだ。  
 2030年の未来を  
 創るために必要な資質

を言い訳にしていると  
 きではない。指導観や  
 教育観を変えられない  
 教員は不要である。

努力が、文科省、全教  
 委、全ジャーナリスト  
 に、今求められている  
 のである。

知識伝達型から真理  
 探究型へ、ドリル型か  
 らプレゼン型へ、過去  
 型学力から未来型学力  
 へ、今回の改訂で教育  
 のあり方を大きく変え  
 ていこう。これは日本  
 のチャンスなのだ。

整然と並んだ指導内  
 容を通して、過去の知  
 識を分かりやすく学ば  
 せる学習指導要領か  
 ら、変化の激しい時代

・能力を全ての教育活  
 動を通じて育成し、困  
 難な課題にも立ち向か  
 い、多様な人々と力を  
 合わせて解決し、より

全ての教育関係者・  
 ジャーナリストが、学  
 びを本質的に変えない  
 限り、日本に未来は無  
 いという危機感を持つ

文科省は、優れた学  
 習指導要領をまとめる  
 まだが自分たちの責任  
 だと思っているのでは  
 なかろうか。目には見

型学力から未来型学力  
 へ、今回の改訂で教育  
 のあり方を大きく変え  
 ていこう。これは日本  
 のチャンスなのだ。

・能力を全ての教育活  
 動を通じて育成し、困  
 難な課題にも立ち向か  
 い、多様な人々と力を  
 合わせて解決し、より

全ての教育関係者・  
 ジャーナリストが、学  
 びを本質的に変えない  
 限り、日本に未来は無  
 いという危機感を持つ

文科省は、優れた学  
 習指導要領をまとめる  
 まだが自分たちの責任  
 だと思っているのでは  
 なかろうか。目には見

型学力から未来型学力  
 へ、今回の改訂で教育  
 のあり方を大きく変え  
 ていこう。これは日本  
 のチャンスなのだ。

型学力から未来型学力  
 へ、今回の改訂で教育  
 のあり方を大きく変え  
 ていこう。これは日本  
 のチャンスなのだ。



れているESDの構成を見て、その特性を後から分析するのに役立つ力・態度に囚われ、苦しんでいるのである。そのような先生方には「あれは、国内外のESD研究機関などが言っている内容と、学

特別部会の「論点整理」を踏まえて、未来社会の厳しい現実に向かうために、『何を学ばせるのか』『どのように学ばせるのか』『何ができようにするのか』ということを出発点にしないで、授業づくりのポイントとして、次の3点が重要である。

(2)「問題解決的な学習過程」を重視し、学習者を中心とした「主体的な学び」「協働的な学び」を実現すること「子どもの学びに火をつける」

(3)知識・理解にとどまらず、学びを生かして「自分たちのこと」として行動する「実践力の育成」を目指すこと「実践力こそ評価の視点」

## 混乱を鎮める

東京都江東区立八名川小学校長

## 手島 利夫

視点

「本校ではESDの研究をしているのですが、ESDの6つの構成概念や、重視する7つの能力・態度を効果的に育成し、適切に評価するにはどうしたらいいのでしょうか」という困惑の声が、多数寄せられてくる。

ESDを実践している教育現場は、混乱しているのである。まじめな学校・まじめな先生ほど、提示さ

習指導要領やOECDのキーコンピテンシーとの整合性を示すために、まとめただけのもので、ESDの授業実践から生まれたものではありません。ですから、必ずしも授業に役立つとは限りません。むしろ、実践して

ESDの授業を創る際には、教育課程企画の活用」

これら3つのポイントを広め、徹底していくことで、学校現場におけるESDの実践の混乱を鎮め、ESDらしい授業づくり・学校づくりに熱中させたい、と考える。



温暖化の進行抑え、国内においても、内閣府をはじめ、経済産業省、環境省、文科省の仕事を主として政治の仕事である。洞爺湖サミット等の場で、各国が危機意識を共有し、その回避に向けた取り組みを強力に進め

国内においても、内閣府をはじめ、経済産業省、環境省、文科省など関係十一省庁の代表や自治体、NPO、企業、教育機関等が集まり、円卓会議を構成して、情報共有や意見

和と発展や環境の保全に貢献する主体性ある日本人を育成することを明確にしたこと。」とある。「時代の変化を的確にとらえ、確かな学力の育成を…」といわれている。学校教育においても、持続可能な社会づくりに向けた確かな学力を育て

## 千代に八千代に…

日本持続発展教育推進フォーラム理事

手島 利夫

「君が代は 千代に八千代に・・・苔のむすまで」と思っていたが、地球温暖化によって、持続不可能な世界の入り口が、すぐそばまで迫っているらしい。地球環境という我々の生活基盤が失われつつある今、日本だけがその影響を避けることはできない。

と同時に、全世界に向けて働きかけていかねばならない。このような、世界を千代に八千代に栄えさせていくための取り組みを、ESD(持続発展教育)という。日本が国際連合を通じて世界に働きかけているものである。

交換をしている。民間の活動も盛んであるが、学校教育の取り組みは遅れているように思う。中央教育審議会答申を受けて、今回の学習指導要領改正において、・・・国際社会の平

ていくことが、重要な緊急な課題である。

【記事のコピーが失われているため、本文を円卓の書式に合わせて、手島が復元したものです。】